

総合計画の通信簿

「第6次総合計画」は本市の最上位計画であり、他の各種計画等はこの計画に沿って策定されています。その最上位計画の通信簿＝各指標の達成状況が公表されました。計画内容がどのように成果を挙げているのかを判断するために、分かりやすく数字で確認できるよう、施策には「施策指標（数値目標）」、重要な事業には「進捗管理指標（KPI）」が設定されています。その達成状況が下の表になります。

	指標数	100%以上	80%以上 100%未満	80%未満	算出不可
施策指標（数値目標）	41	19	11	7	4
進捗管理指標（KPI）	79	36	19	20	4
指標全体	120	55	30	27	8

■達成率が100%以上の主な指標

- 出生数に係る想定数と実数の差 1128%
- 未利用資産の利活用率 350%
- バス利用券の使用枚数 230%
- 図書のパケット事業利用者数 151%
- 結核罹患率 186%
- ホームページ総アクセス数 153%
- 窓口予約の利用件数 149%

出生数の想定は、過去5カ年の平均減少率をもとにし、減少することが前提になっています。令和3年度は1,312人になると想定され、それより14人上回ることが目標でしたが、実績は158人上回り1,470人となりました。国内全体では、コロナ禍で出生数が減少傾向でありますが、本市ではこの3年間、横這い状態になっています。

結核患者数は、10万人当たり令和元年度16.5人（全国平均11.9人）、令和2年度13.1人（全国平均10.1人）となっており、令和3年度の目標値は15.5人としておりましたが、結果は8.3人（全国平均9.1人）でした。新規感染者は75歳以上の高齢者の割合が高いことが特徴です。

■達成率が80%未満で、新型コロナの影響を受けていない指標

- マイナンバーカードの交付率（56.1%）
- 第四中学校区施設一体型小中一貫校の工事（13.6%）
- ふるさとリーサム地区の整備（76.1%）
- 事業継続計画(BCP)作成済の病院（37.5%）
- 市職員の時間外勤務の削減率（68%）
- 対馬江大利線の整備（64.4%）
- し尿等の処理量（78.1%）

■算出不可となった指標は、「小中学生の全国体力・運動能力等調査」や「男女別の健康寿命」の他、イベントの参加者数等を指標としていたものでは中止となったものが算出不可に該当します。

第四中学校区小中一貫校の備品の費用

新たな学校の整備に当り、その中に配置する備品類も必要となります。その入札が終わり、契約と財産を取得するため上程されました。

規格備品（商品化されているもの）	1億6870万円	283種類	6713点
調整備品（教室に合わせて発注するもの）	2億4600万円	163種類	619点

学校の新設は、議員になって初めてのことです。

以前に一般質問で「全中学校区で施設一体型の小中一貫校への移行」を提案しました。（BANDO PRESS 2021. 8. 1号参照）

行政・教育委員会では、その提案に対しての方向性については未だ判断をしておりませんが、仮に、そのようになる場合には、目安となる金額になります。

上水道と下水道の企業会計

【上水道と下水道の借金】

	令和2年度末残高	令和3年度		令和3年度末残高
		借入額	償還額	
上水道	96億6670万円	6億790万円	5億7815万円	96億9645万円
下水道	449億2297万円	35億1870万円	50億7851万円	433億6316万円

上水道・下水道の施設整備は完了し、今後はその維持と更新が主な役割となります。機能を維持するための費用が総費用に占める割合は、上水道は約80%、下水道では約90%です。

上水道の課題	収入の確保	施設の老朽化	外部要因	広域化の是非
	給水人口の減少、節水型の生活様式の進展により、平成5年度から配水量（＝収入）が減少しています。	老朽化した管路の布設替えに取り組んでいますが、そのスピードが老朽化に追いついていません。	自己水をもたないことから、水を100%買って供給しています。供給元である大阪府の卸値に本市の水道の経営が左右されます。	持続可能性を追求する手法の1つに「企業間との統合」があり、総合的な検証が必要です。

下水道の課題	支出に占める借金返済の割合	雨水対策の増強	未接続世帯の解消
	かつて、市内全域の下水道整備を当初計画より前倒した結果、借金総額が大きくなっています。また、現在と比べ、高い利率の借入れが多くなったことから、利子が高くなっています。	都市のアスファルト化や短時間豪雨など雨の降り方の変化によって、浸水対策の増強に迫られています。新たな施設整備の費用が生じています。	下水道に接続可能な区域に居住する人口は、総人口の99.7%。公共下水道に未接続の住戸が残っており、その早期解消が必要です。

対馬江大利線の橋梁工事

現在利用している「大利橋」と「新用悪水路橋」を撤去し、新たに付け替える工事に取り組み、新設済の橋梁と一体化することになります。

そのための準備に1月から入り、令和5年の8月頃から撤去となります。新たな橋台の設置、橋の上部が施工され、橋の完成は7月末を予定しています。

12月議会では、工事請負契約の議案が上程され、契約金額は10億9008万9000円です。

橋梁から西小学校までの道路部分の工事も同時並行で行われます。

地図のように年次計画されています。用地購入部分の整備と現行道路の整備が順次行われ、令和4年度は赤色部分、令和5年度は青色部分の整備を行い、それらが終了すれば全体的に工事が行われる予定です。

その進捗に合わせ車両や歩行者の動線に影響がでてきます。

対馬江大利線全体の完成は、令和6年度末を予定しています。

